

Business Report

ごあいさつ

Top Message

アステリアは、システム、ヒト、モノ、そしてオモイを未来へ「つなぐ」企業としてこれからも成長を続けてまいります。

株主の皆様には、平素より格段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの事業は、「ソフトウェアで世界をつなぐ」をコンセプトに、情報システムや情報間を「つなぐ」ためのソフトウェア、および企業がお客様とつながる接点であるユーザーインターフェイスのデザインを開発し、お客様に提供しております。

当期におきましては、主力製品である「ASTERIA Warp」、[Handbook]が引き続き成長したことに加え、海外を中心として提供する「デザインサービス」も新規顧客を獲得するなど堅調に推移した結果、売上収益は上場来最高となりました。一方で、将来の成長に向けた人材の強化による人件費および積極的な販売促進施策の展開にかかる投資を戦略的に増加させたことに加え、This Place社買収にかかるアーンアウト(成果報酬型買収対価)の増加により、営業利益は減少しましたが、海外ビジネスの広がりによる税負担の軽減により、当期利益は前期比で増益、上場来最高となりました。

これらの結果、当期における売上収益は3,478百万円(前期比11.9%増)、営業利益は389百万円(前期比32.6%減)、税引前利益は463百万円(前期比4.2%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は271百万円(前期比37.4%増)となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも経営へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 / CEO 平野 洋一郎

沿革

History



売上高
(百万円)

1,500

1,200

900

600

300

ASTERIA

ASTERIA R2出荷

Asteria for RosettaNet
販売開始

平野洋一郎と
北原淑行が
当社創立

1998/3

1999/3

2000/3

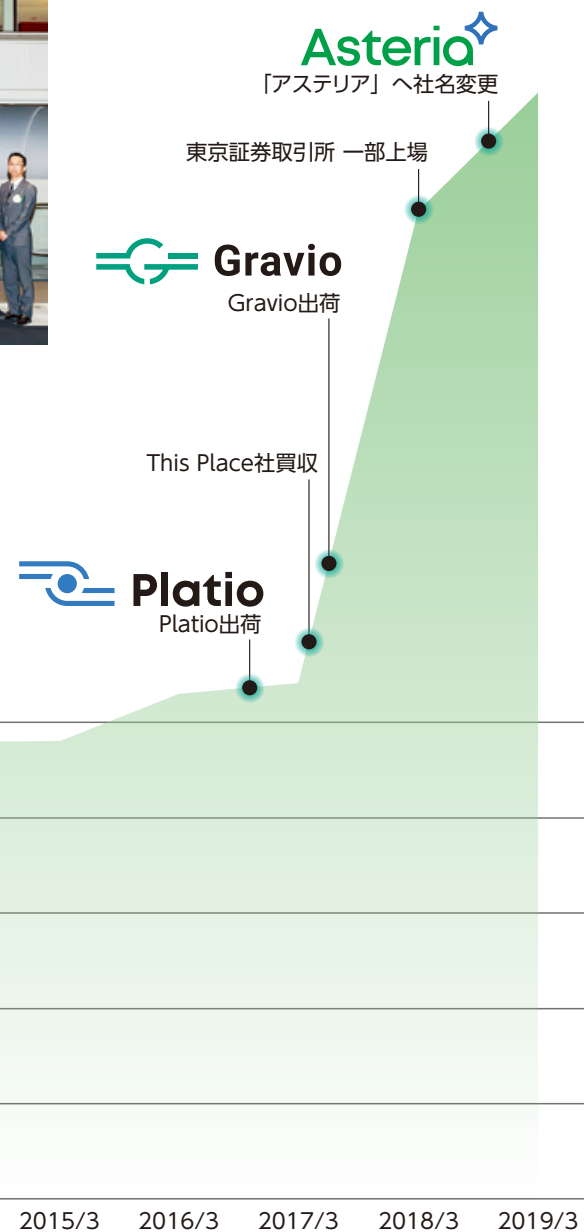
2001/3

2002/3

インフォテリアからアステリアへ

1998年、企業におけるインターネット活用がようやくはじまりを見せたころ、当社社長兼CEOの平野洋一郎と副社長兼CTOの北原淑行は、インターネットとその技術を活用して社内外を問わずあらゆるシステムがつながり、さまざまな業務が遂行される時代が来ると考えました。

当時出来たばかりの新技术「XML」にコンピュータの共通言語としての大きな可能性を確信し「インフォテリア株式会社」を設立しました。そして創業から20年の2018年。社名を「アステリア株式会社」に変更。アステリア（ギリシャ語で「星座」の意味）のもと、これからも多くのつながる価値を創出していきます。



新Platio提供開始



当社では、モバイルデータ活用サービス「Platio」の新バージョン(以下、新Platio)を提供開始しました。

近年、労働者の不足感が高まるトレンドが続き、多くの産業で人手不足が深刻化しています。こうした状況の中で各企業は省力化を進めるためにもICTの活用が不可欠な状況ですが、職場や現場の業務にマッチしたモバイル向けITソリューションの開発やメンテナンスには多大なコストが発生するケースが多く、導入に際してのハードルになるケースが少なくありません。

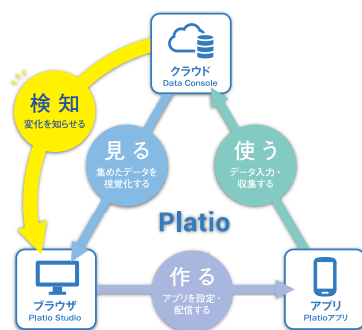
そこで、新Platioでは、システムに詳しくないユーザーでもすぐに現場の業務に合わせたアプリが利用できるよう100種のテンプレートを新規追加。また、アプリを通じて収集した現場の情報などから業務改善につながる変化を検知するAI(2019年夏 搭載予定)による分析や独自の統計機能が、これまで見逃してきた「気づき」を見える化し、現場の改革を推進します。

1 100種のテンプレート 簡単な設定だけですぐにアプリが使える	2 モバイルファースト モバイルに特化した直感的な画面 オフラインでも利用可能	3 検知 データの自動解析による 「気づき」が業務改善に貢献
4 権限管理 アプリの権限管理も簡単 データは中央でセキュアに管理	5 多様な取り扱いデータ 写真・動画や位置情報など 端末の情報も収集可能	6 機器データの取り込み センサーや計測器の値を Bluetooth経由で簡単収集

※Bluetoothの通信仕様(GATT)が組み込まれているため簡単に対応機器と接続できます。

すぐ使える100種のテンプレートを搭載

気づきを促す「検知」機能



現場で入力されたデータを常時閲覧しなくても、予めセットしたルールに基づきAIや統計を活用し日常と異なるデータを検知。異常の検知が自動化されることでタイムリーなアクションが可能に。

店舗 店舗日報 店舗視察管理 商品修理受付 店舗向けテンプレート一覧 >	営業業務 営業日報 顧客要望管理 クレーム管理 営業業務向けテンプレート一覧 >	イベント セミナー受付 アンケート ノベルティ管理 イベント向けテンプレート一覧 >	物流・運輸 配送報告 日常車両点検 車両位置管理 物流・運輸向けテンプレート一覧 >
製造 工場日報 工場改善レポート 施設メンテナンス 製造向けテンプレート一覧 >	ヘルスケア 訪問介護管理 デイケア送迎管理 通所介護ケース記録 ヘルスケア向けテンプレート一覧 >	建設 建設現場作業報告 ヒヤリハット記録 KY活動現場チェック 建設向けテンプレート一覧 >	防災 水位監視 危険地域情報 被災状況報告 防災向けテンプレート一覧 >

さまざまな業務に対応するアプリが予めテンプレートとして用意されているので、幅広い業種の現場に適用するアプリを簡単に作成し、利用できます。テンプレートは今後もさらに拡張予定。

ASTERIA Warp 12年連続市場シェアNo.1※1、 Handbook 累計導入社数ランキングNo.1※2を記録

ASTERIA Warpは当期において、利用ニーズが高いExcelやPDFなどの連携機能の強化や、各種クラウドサービスとの連携機能として、「Office365」や「G Suite」との連携アダプター、サードパーティー製として「SmartHR」や「Box」などに対応した連携アダプターが提供開始されるなど、70種類以上のさまざまなシステムやサービスとの連携ニーズに対応しました。導入企業数は順調に増加しており、2019年3月末における累計導入社数は7,783社となりました。

Handbookについては、強みのある営業現場での利用およびペーパーレス会議の需要を確実に取り込み、契約累計1,507件と着実に伸長しています。また、近年メディアでも注目を集めてきているSales Tech(営業現場でテクノロジーを活用し営業力の強化を図る活動)の分野で積極的にプロモーション活動を展開し、その一つのカテゴリーであるセールス・イネーブルメント・ツール市場において累計導入社数ランキング※2およびベンダー別売上金額シェアNo.1※2を獲得しました。

ASTERIA Warp
導入社数 **7,783**社



Handbook
累計導入件数 **1,507**件



ベンダー別売上金額シェア
(2017年度)※2



累計導入社数ランキング※2

※1 テクノ・システム・リサーチ「2018年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB市場編」
 ※2 ITR「ITR Market View SFA/統合型マーケティング支援市場2019」
 ベンダー別売上金額シェア(2017年度)は、年商10億~100億未満
 累計導入社数ランキングは、初期出荷から2018年9月末までの累計導入社数

投資専門子会社 「Asteria Vision Fund Inc.」の設立

当社グループでは、「中期経営計画2020」において、積極的なM&Aを実施していくことを計画していますが、世界的な視野において当社の投資領域である「4D」(Data, Device, Decentralized, Design)に合致する企業への効率的な投資を行い、当社グループの成長戦略を加速するために、Asteria Vision Fund Inc. (以下 AVF)を米国テキサス州に設立いたしました。

また、投資の原資となる投資事業有限責任組合の組成に向けた活動を進める中で、重点投資領域「4D」の考え方に関し、方向性が合致したことから肥後銀行によるAVFへの出資が決定しました。肥後銀行による当ファンドへの出資額は200万米ドルを予定しています。

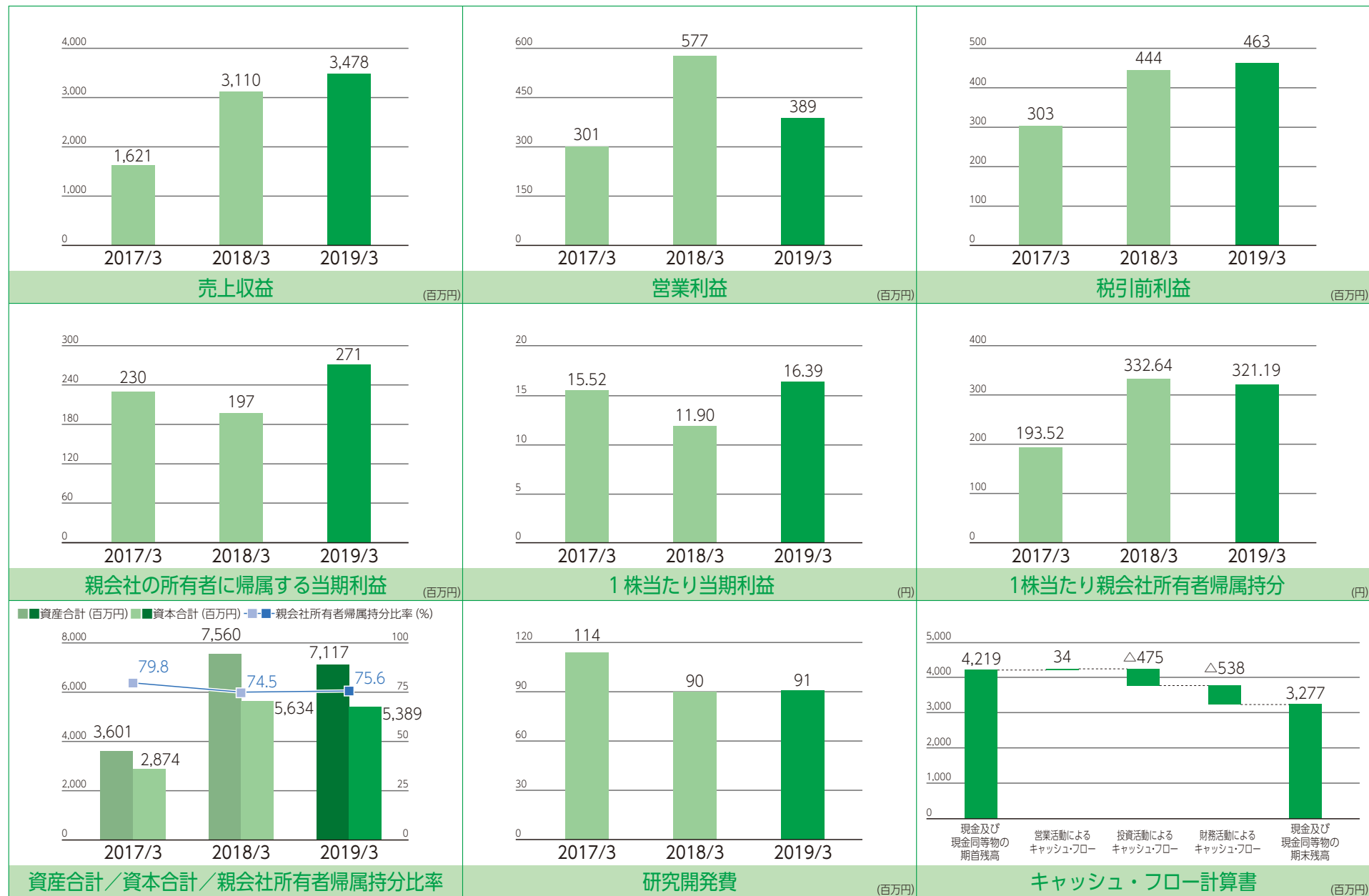


ファンド出資に関する調印式の様子(肥後銀行本店2階会議室にて)

財務ハイライト

Financial Highlights

当連結会計年度における売上収益は3,478百万円(前期比11.9%増)、営業利益は389百万円(前期比32.6%減)、税引前利益は463百万円(前期比4.2%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は271百万円(前期比37.4%増)となりました。



会社概要 (2019年3月31日現在)

商号	アステリア株式会社 Asteria Corporation (旧:インフォテリア株式会社 2018年10月より社名変更しました)
設立 本社	1998年9月 〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F TEL:03-5718-1655
西日本事業所	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目4番13号 阪神産経桜橋ビル 3F TEL:06-6344-1065
資本金	22億7,534万円
事業内容	XMLを基盤としたソフトウェアプロダクト の開発・販売
従業員数(連結)	140名
海外拠点	● Infoteria America Corporation ● 亞思塔(杭州)信息科技有限公司 Asteria (Hangzhou) Co., Ltd. ● 櫻枫天(上海)贸易有限公司 Infoteria China Co., Ltd. ● Infoteria Hong Kong Limited ● Asteria Technology Pte. Ltd. ● This Place Limited ● This Place Inc. ● This Place HK Ltd.

役員 の 状 況 (2019年6月22日現在) ※は社外役員

代表取締役社長/CEO	平野 洋一郎
取締役副社長/最高技術責任者	北原 淑行
取締役	※ 五味 廣文
取締役	※ Anis Uzzaman
取締役	※ 時岡 真理子
常勤監査役	※ 高野 善晴
監査役	※ 赤松 万也
監査役	※ 長崎 玲
執行役員/コーポレート本部長	齊藤 裕久
執行役員/中国開発センター担当	黄 曦
執行役員/Global COO	Dusan Hamlin
執行役員/エンタープライズ本部長	熊谷 晋

株式情報 (2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	44,600,000株
発行済株式の総数	17,491,265株 (自己株式715,800株を含む)
株主数	9,953名

大株主 (上位10名)

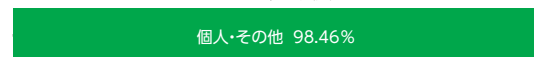
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,122,100	12.65%
平野 洋一郎	1,860,000	11.09%
北原 淑行	888,000	5.29%
パナソニックインフォメーション システムズ株式会社	550,000	3.28%
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	548,000	3.27%
株式会社ミロク情報サービス	528,000	3.15%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	520,000	3.10%
上田八木短資株式会社	275,200	1.64%
HAMLIN DUSAN ALEXANDER	241,103	1.44%
資産管理サービス信託銀行 株式会社(証券投資信託口)	236,900	1.41%

(注) 1. 当社は自己株式715,800株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式(715,800株)を控除して計算しております。

株式の状況 合計株主数 9,953名

自己名義株式	0.01%
金融機関	0.19%
証券会社	0.27%
外国法人等	0.53%
その他の法人	0.54%

所有者別分布状況



証券会社	2.42%
自己名義株式	4.09%
外国法人等	4.93%
その他の法人	8.44%

所有株数別分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
証券コード	3853
上場証券取引所	東京証券取引所(市場第一部)
決算期日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
公告の方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由により、 電子公告によることができない場合は、 日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 通話料無料 0120-232-711 (郵送先)〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座の口座管理機関 同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉区和泉二丁目8番4号 通話料無料 0120-782-031
ホームページ	https://www.asteria.com/

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ASTERIA, Handbook, Platio, Graviolは、アステリア株式会社の登録商標です。
その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

IRメルマガ、LINEメッセージ配信中

アステリアの最新のニュースやトピックス、キャンペーン情報などを、「ASTERIA IR News」としてメールで配信いたします。

メルマガ登録はこちら https://www.asteria.com/jp/contact/mail/ir_entry/

またアステリアが発表するプレスリリースなどを、「リリース配信通知サービス」としてLINEのメッセージで通知いたします。

LINEの
友だち登録は
こちら



「国際テレワーク」開始

当社では、これまで夏場における従業員の健康維持のためのワークスタイルとして「猛暑テレワーク」、豪雪などにより交通混雑が起こることが見込まれる際には「豪雪テレワーク」、帰省時の混雑を避けて早めや遅めに帰省し故郷でテレワークをする「ふるさと帰省テレワーク」など、自社ソフトウェアも含めた最新のITを活用することで、より合理的な就業環境を社員に提供してきました。

そして今回、シンガポールR&Dセンターでの「国際テレワーク」を本格的に開始いたしました。現地での勤務を社員が体験することで、東南アジアの中心地で展開される最新のビジネスを体感することや、世界各国から集まる多様なビジネスパーソンとの交流を通じて、日本国内での就業からは得ることができなかった国際的な見識や斬新な発想を身に付けることを期待しています。また、社員自身の人生を豊かにすることにも会社として貢献することを企図しています。

アステリアでは今後もより柔軟な働き方の創出を通じて生産性のより一層の向上とともに、前例にとられないイノベーティブな発想ができる人材育成に注力してまいります。



国際テレワークの間、社員が生活するサービスアパートメント



ビジネスパートナーとのミーティング
(2019年4月11日@Tanglin Club)

新任取締役からのメッセージ アステリアの社外取締役に就任しての意気込みをお聞かせください。

この度、社外取締役に就任しました時岡真理子と申します。私は外資系のソフトウェア企業で開発、営業、製品マーケティングなどを経験した後、起業家として英国や米国でビジネスを立ち上げ、現在はニューヨークで経営者として活動しています。

アステリアは今、新しい領域への投資を核として、グローバルなスケールでさらなる成長を図ろうとしています。この時に重要なことが、新しい機会の発掘に感度を高め、新規事業をスピーディーに見極めるための意思決定を行うことです。海外での起業家としての経験を活かして、アステリアがより迅速な経営判断をするための体制強化、さらにはグローバル展開などで貢献していきたいと考えています。

私が注力したいもう一つのポイントは、ESGやSDGsです。ニューヨークの私のオフィスでは約25%のメンバーがLGBTで、米国ではこうした多様なメンバーが活躍する就業環境がすでに確立されています。アステリアにおいても、ダイバーシティをより一層推進し、あらゆる人が活躍できる人事体制を構築することにより、競争力を更に高められるよう、尽力していければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



時岡 真理子
East Meet East Inc
Founder & CEO

Business Report

アステリア株式会社

(旧: インフォテリア株式会社)

証券コード: 3853

Asteria Business Report インタビュー

世界レベルの最先端 AI 技術開発と 社会への適用を目指す AI 研究開発子会社 「アステリアART」設立



園田 智也 × 平野 洋一郎

ウタゴエ株式会社 CEO / 情報工学博士

代表取締役社長 / CEO

ー アスティアArtificial Recognition Technology (略称アスティアART) 設立の背景と目的を教えてください

平野 洋一郎 (以下：平野)： 当社が推進している中期経営計画では4つの「D」のうち「Data」「Device」「Decentralized」「Design」という投資領域を挙げましたが、AIは「Data」の中で最も注力している技術です。データの領域においては、マシンラーニングなどのAIテクノロジーによって、ビッグデータと呼ばれるような大量のデータから新たな価値を創造するしくみが次々と実用化しています。アステリアは創業時からデータに着目し、データを「つなぐ」技術を提供してきました。そのため、グルー

プの中に、AIに特化した研究開発チームを作り、成長の礎にしたいと考えていました。しかし、元々アステリア自身はAIの専門家ではありませんので、自前主義に陥ることなく、AIのスペシャリストであるウタゴエの園田さんとアステリアを「つなぐ」、新しい組織を作り上げることになりました。それが、アステリアARTです。これからはあらゆる分野でAIテクノロジーが利用され、AIは社会全般で、なくてはならないもの、になっていくでしょう。そんな未来を見据え、アステリアARTを設立するのことにしたので

園田 智也 (以下：園田)： アステリアARTの大きな目的は、AIテクノロジーの研究を通じて、世の中の役に立つ技術を提供することにあ

ります。マシンラーニングによる認識技術を中心とした最先端のAIテクノロジーを研究しアステリアの製品やサービスに活かしていくだけでなく、学会や業界団体を通じて論文を発表していきます。また、研究開発スタッフは、広くグローバルに採用していく予定です。少数でも機動力のあるチームを作っていくと思っています。

ー アステリアARTでは、AI技術を研究開発するとのことですが、既存のアステリア製品とのシナジー効果は期待できるのでしょうか

平野： もちろんです。直近ではエッジコンピューティングの統合環境「Gvavo」にAI技術が適用されて

いますし、その他のソフトウェアについても逐次対応していきます。アステリアARTが研究して開発した技術は、アステリアが製品として実装し、実用化していくことになりませう。

園田：一般的に基礎研究ということですが、実用化できるものではないことも多いのですが、私たちはすぐに利用できる最新技術を世界に発信していくことも一つの目標だと考えています。アステリアARTの研究開発結果は、アステリアの開発チームと協力してGravioやASTERIA Warpなど多くの既存製品、あるいは今後開発される新製品に適用していくことになるでしょう。

— 平野さんと園田さんはどのように知り合って、新会社を設立するに至ったのでしょうか

園田：初めて平野さんにお会いしたのは、2008年でした。当時「はなフザ」という音声認識技術を使った携帯電話向けのサービスを提供していたのですが、あるコ

ンテストで賞をいただいた折に、授賞式の会場でお声をかけていただきました。

米国オフィスを設立したことをお話ししたところ、激励の言葉をいただいたことを記憶しています。

平野：2008年は東証マザーズに上場した翌年だったこともあり、海外で頑張っているという話を聞いて興味をもったのがきっかけでした。その後、偶然にも同じ熊本出身だということがわかり、公私にわたって交流してきました。

園田：その後、ウタゴエとしてP2Pを使った映像配信技術や音声認識の技術を、アステリア(当時はインフォテリア)の製品に適用できないか一緒に研究したりしていました。が、なかなか製品への適用には至りませんでした。実際に研究開発が市場にでたのは、2018年のGravioが最初です。

— アステリアARTの代表となる園田さんのプロフィールを教えてくださいいただけますか

園田：大学時代に所属していた研究室では日本で最初の検索エンジン「千里眼」を作っており、文字列検索エンジンの開発に携わっていました。研究テーマを決めるにあたって教授から、「文字列検索はすでに他の人が研究している。もっと誰もやっていないところに着手したらどうか」と言われ、画像検索や音声検索はどうかと考えて音声のパターン認識技術などの研究を開始しました。1997年頃には、インターネット上で音声か



ら楽曲を検索するサービスを世界で初めて提供しました。さらに2000年頃からは、動画から映像を認識する技術についての研究も開始し、空中に文字を書いた動画の軌跡やパターンから文字を認識するといったしくみを開発していました。ので、かなり以前から機械による認識を研究していたことになりました。

2001年に起業したのですが、当時はまだ大学の博士課程でした。音声検索サービスが主力ではありませんでしたが、その後はP2Pによる映像配信システム、音声認識技術を応用した鼻歌音感ゲームなどを提供してきました。

— 今後AIや機械学習の市場とはどういったものになるのでしょうか

平野：AIや機械学習そのものの市場というよりも、既存の製品やサービスを、AIを活用してより便利に使うっていくということが主眼が置かれるようになるので





対談のロングバージョンをWEBで公開中です。
https://www.asteria.com/jp/news/newstotics/2019/06/23_01.php

しよう。アステリアの製品やクラウドサービスはもろろん海外で展開しているデザインサービス、あるいはデジタルトランスフォーメーションを推進していくことにもAI、特に認識技術を適用していくことができるかと考えています。たとえば、先日結婚式でスピーチをしたのですが、スピーチの原稿はHandbookでメモっていました。その時にふと、自分のスピーチの音声を確認して、常に読み上げる部分を中央に表示したりできる便利ではないかと思いついたのです。もちろん、実際にその機能を実装するとは限りませんが、AIテクノロジーを利用して世の中を便利にしていくアイデアは、今後もあるところ生まれ続けてくるのではないのでしょうか。

— 「第一線AI技術者の採用を行い、中期経営計画の終了する2020年度末には10名程度の研究開発拠点となる見込み」と発表されていますが、アステリアARTを加えたアステリアグループの今後についてお話し頂けますか。

園田：現在日本の労働人口の減少は深刻です。業種・業態を問わず、今後ますます人手が不足していくことは明らかで、人でなくてもできることは機械に置き換えたいという需要はますます高まっていくことが予想されます。このような課題に対してAIテクノロジーを活用し、より良い社会を実現していくことは、アステリアARTの大きな使命です。

また、新しく生まれるテクノロジーにも、積極的に対応していきます。60年前の人がイメージした、人の知性を模倣するAIはまだ生まれていないのが現状ですが、最近では機械が「意図」を持ち、「想像」「夢を見る」ことができるような研究が進んでいます。このような新しいテクノロジーに着目し、実用化して世の中の役に立つような企業に成長させたいと考えています。

れ、世界に貢献できる人材を採用したいと考えています。日本企業は「個」が突出することを好まない傾向にありますが、「尖った個人の研究者を抱える研究開発企業にしていきたいですし、アステリアグループのリーディング企業になってもらいたいですね。また、世間にはAIの研究開発を前面に押し出している企業はたくさんありますが、本当にAI分野に貢献している企業はそれほど多くないように感じています。アステリアARTは研究開発活動を通じ、広く社会に貢献できるようなAI企業でありたいと思っています。また、アステリアグループとして、アステリアARTから生まれた技術はきちんと実用化して実装し、利用できる技術にしていきます。

